レジメン登録フォーマット

申請年月日	2021/10/4	使用開始日			
登録診療科	血液内科	申請医師	松永一美	化学療法委員会承認年月	年　月
レジメン名	R-MPV療法（CNSリンパ腫）				
疾患名	CNSリンパ腫	適応の備考			
適応分類	寛解導入				
1コース日数	14　日間	総コース数	7　コース	催吐性リスク	day1最小度、day2-8高度
抗がん剤投与量・投与日	リツキシマブ375mg/㎡ day1、 オンコビン1.4mg/㎡ day2、メソトレキセート3500mg/㎡ day2 、プロカルバジン100mg/㎡ day2-8（奇数 1,3,5,7クール目のみ）				

治療スケジュール ・ 投与日程（投与日は●）　　(day)

投与順	ルート・方法	薬剤名	投与量	投与時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	主ルート	生食50mL	1 本 / body	5 分	●													
	点滴静注		/															
	プライミング用																	
2	主ルート	生食500mL	0.675 本 / ㎡		●													
	点滴静注	リツキシマブ注	375 mg / ㎡	下記	●													
	10倍に希釈する		/															
3	主ルート	生食50mL	1 本 / body	5 分	●													
	点滴静注		/															
4	側管	生食250mL	1 本 / body			●												
	点滴静注	ホスアプレピタント注150mg	1 本 / body	30 分		●												
			/															
5	側管	グラニセトロン注ﾊﾞｯｸﾞ1mg/50mL	1 本 / body			●												
	点滴静注	デキサート注1.65mg	3 本 / body	30 分		●												
			/															
6	側管	生食100mL	1 本 / body			●												
	点滴静注	オンコビン注	1.4 mg / ㎡	30 分		●												
	最大投与量は2mg/body/回を超えないこととする。		/															
7	側管	生食500mL	1 本 / body			●												
	点滴静注	メソトレキセート注	3500 mg / ㎡	3 時間		●												
	生食200mL抜く		/															
8	側管	生食50mL	1 本 / body	5 分		●												
	点滴静注		/															
9	側管	生食50mL	1 本 / body				●	●	●									
	点滴静注	ロイコボリン注3mg	5 本 / body	5 分			●	●	●									
	メソトレキセート投与開始後24時間後から6時間毎10回投与する。		/				×3	×4	×3									
	メソトレキセート投与開始後48時間値、72時間値を測定し、適切な対応をとる。																	
	経口投与	ボララミン錠2mg	1-3 錠 / body		●													
		ジクロフェナク錠25mg	1 錠 / body		●													
	リツキシマブ投与の30分前		/															
	経口投与	塩酸プロカルバジン	100 mg / ㎡			●	●	●	●	●	●	●						
	プロカルバジンは奇数1,3,5,7クール目のみ	1日1-2回に分割して経口投与	/															

【投与上の注意】
リツキシマブ：前投薬としてポララミン（2）1～3錠、ジクロフェナク(25)1錠を内服する。
リツキシマブ：初回はECGモニターをつける。
リツキシマブ：投与速度　初回は50mL/hで開始し、30分毎に50mL/hずつ上げ、最大400mL/hまで上げることができる。
リツキシマブ：投与速度　2回目以降は、医師の指示により、投与法①、②から選択
投与法①：初回投与時に発現した副作用 が軽微な場合、100mL/hで開始 、30分毎に100mL/hずつ上げ、最大400mL/時まで。
投与法②：臨床的に重篤な心疾患がなく、初回投与時に発現した副作用が軽微、かつ投与前の末梢血リンパ球数が5,000/μL未満の場合、
　　最初の30分で投与量の20%を投与、残りその後60分で投与量の80%を投与（90分間で投与）。
・ﾎｽｱﾌﾟﾚﾋﾟﾀﾝﾄは血管痛が報告されているため、溶解には可能な限り生食250mLを使用すること(最低でも100mL以上)。
・ﾎｽｱﾌﾟﾚﾋﾟﾀﾝﾄは抗がん剤投与の1時間前に30分かけて点滴すること。
・ﾎｽｱﾌﾟﾚﾋﾟﾀﾝﾄの次に5-HT3受容体拮抗薬+デキサート注を投与して、その次に抗がん剤を投与すること。

・メソトレキセート：尿のpHチェックを行い、pH7.0以上であることを確認すること。pHが低いときには、メイロン注を適宜追加投与する。
・メソトレキセート：メイロン等を含めた補液をday2～に投与する。
・メソトレキセートは、生食500mLの予備容量を超えることから予め生食200mLを抜いて調製する。